

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2027年6月9日まで（2017年7月31日設定）	
運用方針	ワールド・ビューティー・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国のビューティー・ビジネス関連企業の株式に投資を行います。なお、ビューティー・ビジネス関連企業とは、委託会社の視点において、人の美しさの向上に寄与する事業などを行い、今後の美容関連市場における成長の恩恵を享受すると考えられる企業をいいます。株式への投資にあたっては、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、銘柄選定を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。	
主要運用対象	ベビーファンド	ワールド・ビューティー・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	日本を含む世界各国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。（資金動向や市況動向等により変更する場合があります。）	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）

第12期（決算日：2023年6月9日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）」は、去る6月9日に第12期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

当期間の運用で主眼を置いたポイントをご説明させていただきます。

投資環境

世界の株式市況は、期間の初めから2022年末にかけて、米連邦準備制度理事会（F R B）による利上げへの懸念などを背景に調整局面となりました。2023年1月以降は、米消費者物価指数（C P I）の上昇率の軟化などを受け、米国の利上げペース減速への期待感から上昇する展開に転じました。その後は、一部米銀行の経営破綻などから欧米の金融システム不安が台頭、市況が急落する場面もあったものの、欧米当局の金融安定化への姿勢などによる金融システム不安の後退、加えて米大手ハイテク株の堅調な2023年1-3月期決算の内容などを好感し、反発基調となり期間末を迎えています。

一方で、ビューティー・ビジネス関連銘柄は総じて堅調な利益成長が続いていますが、中国におけるゼロコロナ政策解除後の消費回復にやや遅れが見られたこと等から、期間末に向け株価はやや弱含む場面も見られました。

運用のポイント

2020年9月に就任した新C E O（最高経営責任者）による経営改善が期待される中、フレグランス需要の構造的な変化も追い風となる「COTY INC-CL A」の組み入れ比率を大幅に増やしました。また、世界的な高いブランド力や高収益性、新興国における成長性などを重視し、引き続き「ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A」、 「L'OREAL」などの欧米有力化粧品メーカーの上位組み入れを維持しました。

運用環境の見直しおよび今後の運用方針

現在世界は多くの不透明感に直面しています。インフレがなかなかおさまらない中、景気減速懸念や相次ぐ米地銀の破綻などを受け、各国中央銀行の舵取りは厳しさを増しています。また、長引くロシア・ウクライナ情勢や台湾有事などの地政学リスクもあります。しかし、様々な不透明感がある中でも、また景気後退期でも、底堅さを示してきたのがビューティー市場で、それを支えるビューティー関連消費は非常に安定的なものです。美しくなりたいという「美の追求」は、世界中の老若男女共通であり、その根源的な欲求が需要を支えているわけですが、様々な成長ドライバーも存在します。新興国における中間層の台頭によって、より多くの人々がビューティーを楽しむことができるようになることは、ビューティー市場の裾野を広げます。また、男性向け化粧品市場の拡大や、これまで使用率が低かったフレグランス需要の拡大などは、ビューティー市場における潜在的な需要を掘り起こします。さらに、より高い効果効能が求められるアンチエイジング向け商品の開発や、パーソナライズされたビューティーケアなどは、プレミアム化を通じてビューティー市場の拡大に寄与します。こうした様々なドライバーがビューティー市場の中長期の成長を高めるものと期待しています。そうした特性を持つビューティー関連銘柄の運用においては、目先の景気動向がどうなるかに注意を向けるより、ビューティー需要をしっかりと捉え安定的な成長が見込める銘柄を見極めることの方が、長期的なリターンを高める上では重要だと考えています。今後もパフォーマンスの向上に努めてまいります。



株式運用部

ファンドマネージャー

秋元 政隆 西 直人 柳原 武士 飯田 太郎 小島 直人 安井 陽一郎

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
		税 分 配	み 騰 落	中 率			
	円	円	%	%	%	百万円	
8期(2021年6月9日)	10,000	925	9.3	94.0	—	4,175	
9期(2021年12月9日)	10,000	600	6.0	96.9	—	5,124	
10期(2022年6月9日)	8,448	0	△15.5	97.9	—	4,712	
11期(2022年12月9日)	8,659	0	2.5	99.0	—	4,715	
12期(2023年6月9日)	8,644	0	△0.2	97.4	—	4,439	

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	式 率
		騰 落	率			
(期首) 2022年12月9日	円	円	%	%	%	%
	8,659	—	—	99.0	—	—
12月末	8,598	△0.7	96.5	—	—	—
2023年1月末	8,838	2.1	95.8	—	—	—
2月末	8,841	2.1	97.5	—	—	—
3月末	9,077	4.8	97.9	—	—	—
4月末	9,411	8.7	95.9	—	—	—
5月末	8,606	△0.6	96.1	—	—	—
(期末) 2023年6月9日	8,644	△0.2	97.4	—	—	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

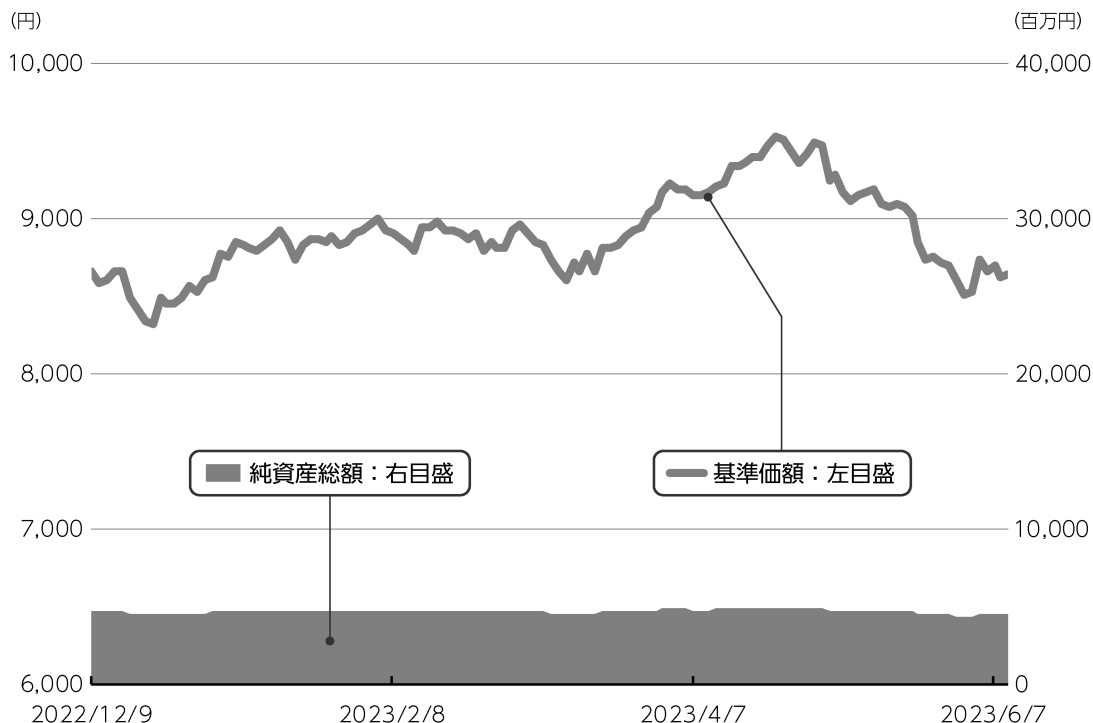
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第12期：2022年12月10日～2023年6月9日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第12期首	8,659円
第12期末	8,644円
既払分配金	0円
騰落率	-0.2%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 ※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ0.2%の下落となりました。

▶ 基準価額の主な変動要因

下落要因

組入銘柄（ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A、ULTA BEAUTY INC、ABBVIE INC）の値下がりなどを背景に基準価額は下落しました。

第12期：2022年12月10日～2023年6月9日

投資環境について

▶ 株式市況

世界の株式市況は上昇しました。

期間の初めから2022年末にかけて、米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げへの懸念などを背景に調整局面となりました。2023年1月以降は、米消費者物価指数（CPI）の上昇率の軟化などを受け、米国の利上げペース減速への期待感から上昇する展開に転じました。その

後は、一部米銀行の経営破綻などから欧米の金融システム不安が台頭、市況が急落する場面もあったものの、欧米当局の金融安定化への姿勢などによる金融システム不安の後退、加えて米大手ハイテク株の堅調な2023年1－3月期決算の内容などを好感し、反発基調となり期間末を迎えています。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）

ワールド・ビューティー・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国のビューティー・ビジネス関連企業の株式に投資を行いました。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかりました。

当ファンドでは、「新興国」、「潜在的な需要の掘り起こし」、「プレミアム化」などに着目した運用を行いました。通貨別では、円や香港ドルなどの比率を引き上げた一方、米ドルなどの比率を引き下げました。

組入銘柄数については、期間の初めの35銘柄から期間末は36銘柄となりました。

▶ ワールド・ビューティー・マザーファンド

日本を含む世界各国の企業の中から構造的な成長が続くビューティー市場からの恩恵を最大限享受すると考えられる企業の取材を通じて選別しました。

主な銘柄入替は以下の通りです。化粧品やライフサイエンス向けに付加価値の高い素材を提供する「CRODA INTERNATIONAL PLC」を新規に組み入れました。化粧品の成分への関心が高まる中、特にスキンケアの効果を高める素材の開発販売に強みを持つ同社の成長に

期待しています。
国内では既にシェアが高く成長余地が限られる中、高価格帯のヘアケア領域での

競争激化が懸念されるため、美容室向けヘアケアメーカーの「ミルボン」を全売却しました。

当投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、決定します。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。（資金動向や市況動向等により変更する場合があります。）この結果、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第12期
	2022年12月10日～2023年6月9日
当期分配金（対基準価額比率）	-（-%）
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	350

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

▶ ワールド・ビューティー・オープン （為替ヘッジあり）

マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。

▶ ワールド・ビューティー・マザーファンド

ビューティー市場を支えるビューティー関連消費は非常に安定的なものです。美しくなりたいという「美の追求」は、世界中の老若男女共通であり、その根源的な欲求が需要を支えているわけですが、様々な成長ドライバーも存在します。新興国における中間層の台頭によって、より多くの人々がビューティーを楽しむことができるようになることは、ビューティー市場の裾野を広げます。また、男性向け化粧品市場の拡大や、これまで使用率が低かったフレグランス需要の拡大などは、ビューティー市場における潜在的な需要を掘り起こします。さらに、より高い効果効能が求められるアンチエイジング向け商品の開発や、パーソナライズされたビューティーケアなどは、プレミアム化を通じてビューティー市場の拡大に寄与します。こうした様々なドライバー

がビューティー市場の中長期の成長を高めるものと期待しています。

コロナ禍では店舗閉鎖など物理的なアクセスが大きく制限され、一時的に市場は落ち込みましたが、その後は各国の経済正常化に伴い急回復しており、ビューティーに対する需要に構造的な変化がなかったことが確認されました。ゼロコロナ政策が解除された中国でも人の動きが活発化するなど、ビューティー市場もいよいよコロナ前の安定的な成長軌道に戻っていくものと予想しています。

株式市況については、インフレ懸念や景気動向への不透明感、地政学リスクなどに引き続き注意が必要です。しかし、ビューティー関連銘柄は、そうした市況の変動や景気後退、インフレに対する耐性が相対的に高い特徴があると考えています。足元では、欧米を中心に長引くインフレを受け、消費者は選別的になっており弱含みが見られつつあります。しかし、インフレの環境にうまく適応できる企業群もあり、当ファンドで投資しているビューティー関連銘柄、特に化粧品メーカーはその1つだと考えています。化粧品メーカーが提供する効果効能や機能性、革新性、ブランドイメージなどに対する消費者のロイヤリティは高い傾向にあり、そうしたものに価値を感じて人々はお金

を支払うため、結果として化粧品メーカーの売上総利益率は高くなりやすいです。こうした企業群は、販売量に大きな影響を与えることなく、比較的容易に価格を上げることができる能力を持っており、特にインフレ環境下ではその能力の差が表面化しやすいと考えています。インフレ環境下において底堅さを示すビューティー・ビジネス関連銘柄の秘密は、こうしたところに隠されていると考えています。

変化するフレグランス需要は、当ファンドで注目しているポイントの1つです。コロナ禍を経て、ギフト用から自分用へとフレグランスの需要に変化が見られ、

売上高はコロナ前の水準を上回っています。コロナ禍では閉塞感を感じる人も多かったり、後遺症として嗅覚障害の報告もあつたりする中、香りによるリラックス効果を求める需要が高まった可能性があります。最初はホームフレグランスなど在宅時の環境を充実させるものから広がったと思われませんが、それが経済再開と共に外出時のフレグランスの使用や、さらには場面に応じて香りを変えるなど、使い方の幅も広がりました。欧州に比べてこれまで使用率の低かった米国やアジア諸国、また若い世代や男性などの需要も増えており、伸びしろも大きく今後の成長を期待しています。

2022年12月10日～2023年6月9日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	80	0.900	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(39)	(0.439)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(39)	(0.439)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	7	0.083	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(7)	(0.083)	
(c) 有価証券取引税	2	0.023	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(2)	(0.023)	
(d) その他費用	1	0.009	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.007)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	90	1.015	

期中の平均基準価額は、8,898円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

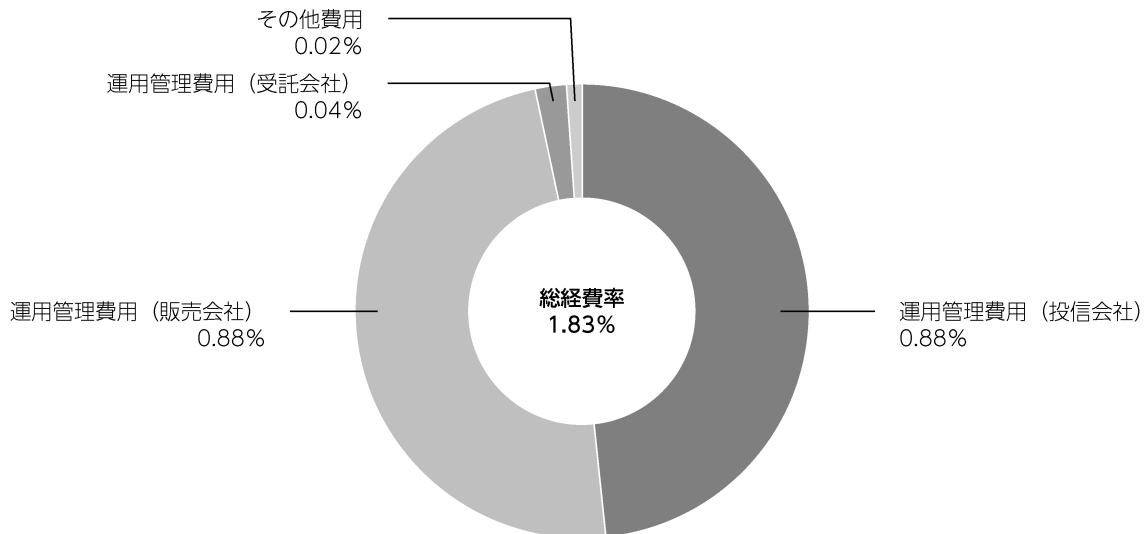
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.83%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

（2022年12月10日～2023年6月9日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
ワールド・ビューティー・マザーファンド	千口 374,292	千円 668,030	千口 648,427	千円 1,212,280

○株式売買比率

（2022年12月10日～2023年6月9日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ワールド・ビューティー・マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	17,323,168千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	27,301,849千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.63

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

（2022年12月10日～2023年6月9日）

利害関係人との取引状況

<ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）>

区分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人との取引状況 D	$\frac{D}{C}$	%
為替先物取引	百万円 2,831	百万円 19,825	14.3	百万円 2,971	百万円 19,328	15.4

<ワールド・ビューティー・マザーファンド>

区分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人との取引状況 D	$\frac{D}{C}$	%
株式	百万円 541	百万円 6,969	7.8	百万円 391	百万円 10,353	3.8
為替直物取引	—	2,205	—	2,160	5,838	37.0

平均保有割合 16.6%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	3,866千円
うち利害関係人への支払額 (B)	118千円
(B) / (A)	3.1%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2023年6月9日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ワールド・ビューティー・マザーファンド	2,613,395	2,339,260	4,413,717

○投資信託財産の構成

(2023年6月9日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ワールド・ビューティー・マザーファンド	4,413,717	97.7
コール・ローン等、その他	101,974	2.3
投資信託財産総額	4,515,691	100.0

(注) ワールド・ビューティー・マザーファンドにおいて、期末における外貨建純資産（23,575,495千円）の投資信託財産総額（27,456,254千円）に対する比率は85.9%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=139.15円	1 ユーロ=150.00円	1 イギリスポンド=174.69円	1 スイスフラン=154.65円
1 香港ドル=17.76円	100韓国ウォン=10.76円		

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2023年6月9日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	8,186,223,657
コール・ローン等	101,974,117
ワールド・ビューティー・マザーファンド(評価額)	4,413,717,286
未収入金	3,670,532,254
(B) 負債	3,746,257,900
未払金	3,702,035,960
未払解約金	2,041,000
未払信託報酬	42,101,309
未払利息	116
その他未払費用	79,515
(C) 純資産総額(A-B)	4,439,965,757
元本	5,136,425,513
次期繰越損益金	△ 696,459,756
(D) 受益権総口数	5,136,425,513口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,644円

<注記事項>

- ①期首元本額 5,445,286,390円
 期中追加設定元本額 241,798,605円
 期中一部解約元本額 550,659,482円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.8644円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は696,459,756円です。

③分配金の計算過程

項 目	2022年12月10日～ 2023年6月9日
費用控除後の配当等収益額	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	122,731,429円
分配準備積立金額	57,353,844円
当ファンドの分配対象収益額	180,085,273円
1万口当たり収益分配対象額	350円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

○損益の状況（2022年12月10日～2023年6月9日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 14,187
受取利息	246
支払利息	△ 14,433
(B) 有価証券売買損益	29,212,817
売買益	459,295,791
売買損	△430,082,974
(C) 信託報酬等	△ 42,180,824
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 12,982,194
(E) 前期繰越損益金	△546,307,275
(F) 追加信託差損益金	△137,170,287
(配当等相当額)	(122,484,331)
(売買損益相当額)	(△259,654,618)
(G) 計(D+E+F)	△696,459,756
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△696,459,756
追加信託差損益金	△137,170,287
(配当等相当額)	(122,731,429)
(売買損益相当額)	(△259,901,716)
分配準備積立金	57,353,844
繰越損益金	△616,643,313

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

【お知らせ】

三菱UFJ国際投信株式会社は、2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更します。

ワールド・ビューティー・マザーファンド

《第12期》決算日2023年6月9日

[計算期間：2022年12月10日～2023年6月9日]

「ワールド・ビューティー・マザーファンド」は、6月9日に第12期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第12期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として日本を含む世界各国のビューティー・ビジネス関連企業の株式に投資を行います。なお、ビューティー・ビジネス関連企業とは、委託会社の視点において、人の美しさの向上に寄与する事業などを行い、今後の美容関連市場における成長の恩恵を享受すると考えられる企業をいいます。株式への投資にあたっては、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、銘柄選定を行います。株式の組入比率は高位を維持することを基本とします。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主 要 運 用 対 象	日本を含む世界各国の株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率			
	円		%	%	%	百万円
8期(2021年6月9日)	16,252		15.7	98.5	—	19,875
9期(2021年12月9日)	17,609		8.3	97.6	—	27,433
10期(2022年6月9日)	16,935	△	3.8	97.1	—	28,122
11期(2022年12月9日)	18,023		6.4	99.1	—	27,458
12期(2023年6月9日)	18,868		4.7	98.0	—	25,480

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	
				式 率
(期 首) 2022年12月9日	円 18,023	% —	% 99.1	% —
12月末	17,484	△ 3.0	97.4	—
2023年1月末	17,903	△ 0.7	96.0	—
2月末	18,524	2.8	97.7	—
3月末	18,952	5.2	97.0	—
4月末	19,900	10.4	96.4	—
5月末	18,790	4.3	97.1	—
(期 末) 2023年6月9日	18,868	4.7	98.0	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

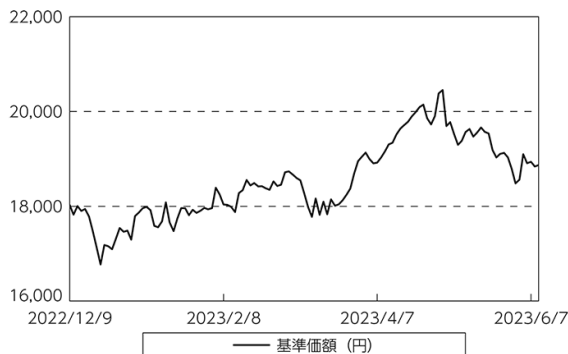
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ4.7%の上昇となりました。

基準価額等の推移



●基準価額の変化要因

(上昇要因)

組入銘柄 (COTY INC-CL A、L' OREAL、LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI) の値上がりなどを背景に基準価額は上昇しました。

円に対して米ドルが上昇したことが、プラスに寄与しました。

●投資環境について

◎株式市況

・世界の株式市況は上昇しました。

期間の初めから2022年末にかけて、米連邦準備制度理事会 (FRB) による利上げへの懸念などを背景に調整局面となりました。2023年1月以降は、米消費者物価指数 (CPI) の上昇率の軟化などを受け、米国の利上げペース減速への期待感から上昇する展開に転じました。その後は、一部米銀行の経営破綻などから欧米の金融システム不安が台頭、市況が急落する場面もあったものの、欧米当局の金融安定化への姿勢などによる金融システム不安の後退、加えて米大手ハイテク株の堅調な2023年1-3月期決算の内容などを好感し、反発基調となり期間末を迎えています。

◎為替市況

- ・円に対して米ドル、ユーロは上昇しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・日本を含む世界各国の企業の中から構造的な成長が続くビューティー市場からの恩恵を最大限享受すると考えられる企業の取材を通じて選別しました。
- ・当ファンドでは、「新興国」、「潜在的な需要の掘り起こし」、「プレミアム化」などに着目した運用を行いました。
- ・通貨別では、円や香港ドルなどの比率を引き上げた一方、米ドルなどの比率を引き下げました。
- ・組入銘柄数については、期間の初めの35銘柄から期間末は36銘柄となりました。

主な銘柄入替は以下の通りです。

化粧品やライフサイエンス向けに付加価値の高い素材を提供する「CRODA INTERNATIONAL PLC」を新規に組み入れました。化粧品の成分への関心が高まる中、特にスキンケアの効果を高める素材の開発販売に強みを持つ同社の成長に期待しています。

国内では既にシェアが高く成長余地が限られる中、高価格帯のヘアケア領域での競争激化が懸念されるため、美容室向けヘアケアメーカーの「ミルボン」を全売却しました。

○今後の運用方針

- ・ビューティー市場を支えるビューティー関連消費は非常に安定的なものです。美しくなりたいという「美の追求」は、世界中の老若男女共通であり、その根源的な欲求が需要を支えているわけですが、様々な成長ドライバーも存在します。新興国における中間層の台頭によって、より多くの人々がビューティーを楽しむことができるようになることは、ビューティー市場の裾野を広げます。また、男性向け化粧品市場の拡大や、これまで使用率が低かったフレグランス需要の拡大などは、ビューティー市場における潜

在的な需要を掘り起こします。さらに、より高い効果効能が求められるアンチエイジング向け商品の開発や、パーソナライズされたビューティーケアなどは、プレミアム化を通じてビューティー市場の拡大に寄与します。こうした様々なドライバーがビューティー市場の中長期の成長を高めるものと期待しています。

- ・コロナ禍では店舗閉鎖など物理的なアクセスが大きく制限され、一時的に市場は落ち込みましたが、その後は各国の経済正常化に伴い急回復しており、ビューティーに対する需要に構造的な変化がなかったことが確認されました。ゼロコロナ政策が解除された中国でも人の動きが活発化するなど、ビューティー市場もいよいよコロナ前の安定的な成長軌道に戻っていくものと予想しています。

- ・株式市況については、インフレ懸念や景気動向への不透明感、地政学リスクなどに引き続き注意が必要です。しかし、ビューティー関連銘柄は、そうした市況の変動や景気後退、インフレに対する耐性が相対的に高い特徴があると考えています。足元では、欧米を中心に長引くインフレを受け、消費者は選別的になっており弱含みが見られつつあります。しかし、インフレの環境にうまく適応できる企業群もあり、当ファンドで投資しているビューティー関連銘柄、特に化粧品メーカーはその1つだと考えています。化粧品メーカーが提供する効果効能や機能性、革新性、ブランドイメージなどに対する消費者のロイヤリティは高い傾向にあり、そうしたものに価値を感じて人々はお金を支払うため、結果として化粧品メーカーの売上総利益率は高くなりやすいです。こうした企業群は、販売量に大きな影響を与えることなく、比較的容易に価格を上げることができる能力を持っており、特にインフレ環境下ではその能力の差が表面化しやすいと考えています。インフレ環境下において底堅さを示すビューティー・ビジネス関連銘柄の秘密は、こうしたところに隠されていると考えています。

- ・変化するフレグランス需要は、当ファンドで注目しているポイントの1つです。コロナ禍を経て、ギフト用から自分用へとフレグランスの需要に変化が見られ、売上高はコロナ前の水準を上回っています。コロナ禍では閉塞感を感じる人も多かったり、後遺症として嗅覚障害の報告もあったりする中、香りによるリラックス効果を求める需要が高まった可能性があります。最初はホームフレグランスなど在宅時の環境を充実させるものから広がったと思われませんが、それが経済再開と共に外出時のフレグランスの使用や、さらには場面に応じて香りを変えるなど、使い方の幅も広がりました。欧州に比べてこれまで使用率の低かった米国やアジア諸国、また若い世代や男性などの需要も増えており、伸びしろも大きく今後の成長を期待しています。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年12月10日～2023年6月9日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 15 (15)	% 0.083 (0.083)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	4 (4)	0.023 (0.023)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	1 (1)	0.007 (0.007)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
合 計	20	0.113	
期中の平均基準価額は、18,531円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年12月10日～2023年6月9日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上場	千株 247	千円 1,266,194	千株 294	千円 811,313
	外				
	アメリカ	百株 11,468	千アメリカドル 14,194	百株 2,437	千アメリカドル 30,521
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	906	9,965	61	724
	フランス	—	—	1,171	19,770
	イギリス	1,097	千イギリスポンド 7,003	1,595	千イギリスポンド 8,570
	スイス	643	千スイスフラン 2,576	281	千スイスフラン 6,404
	香港	9,300	千香港ドル 28,475	—	千香港ドル —
	韓国	44	千韓国ウォン 2,934,848	—	千韓国ウォン —

(注) 金額は受渡代金。

○株式売買比率

(2022年12月10日～2023年6月9日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	17,323,168千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	27,301,849千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.63

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年12月10日～2023年6月9日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 6,969	百万円 541	% 7.8	百万円 10,353	百万円 391	% 3.8
為替直物取引	2,205	—	—	5,838	2,160	37.0

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	23,395千円
うち利害関係人への支払額 (B)	718千円
(B) / (A)	3.1%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2023年6月9日現在)

国内株式

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
化学 (100.0%)				
日油	—	123.1	742,046	
花王	62.5	132.1	667,237	
資生堂	174.9	166.5	1,092,739	
マンダム	14.5	—	—	
ミルボン	8.8	—	—	
ファンケル	460.9	209.5	501,752	
コーセー	2.1	2.1	30,387	
ポーラ・オルビスホールディングス	10.8	10.8	22,129	
I - n e	—	44.2	127,870	
合 計	株 数 ・ 金 額	734	688	3,184,162
	銘 柄 数 < 比 率 >	7	7	< 12.5% >

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

外国株式

銘柄	株数	株数	期末		業種等	
			評価額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円		
COLGATE-PALMOLIVE CO	1,740	1,316	9,970	1,387,442	家庭用品・パーソナル用品	
ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	672	597	10,826	1,506,457	家庭用品・パーソナル用品	
JOHNSON & JOHNSON	224	174	2,793	388,714	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
PROCTER & GAMBLE CO/THE	1,087	601	8,806	1,225,378	家庭用品・パーソナル用品	
CLOROX COMPANY	72	—	—	—	家庭用品・パーソナル用品	
ALIGN TECHNOLOGY INC	2	2	88	12,250	ヘルスケア機器・サービス	
COOPER COS INC/THE	110	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
LULULEMON ATHLETICA INC	185	157	5,587	777,468	耐久消費財・アパレル	
ULTA BEAUTY INC	243	243	10,201	1,419,495	一般消費財・サービス流通・小売り	
CHURCH & DWIGHT CO INC	596	315	2,961	412,057	家庭用品・パーソナル用品	
ABBVIE INC	399	139	1,925	267,964	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
COTY INC-CL A	802	11,029	13,015	1,811,058	家庭用品・パーソナル用品	
APTARGROUP INC	826	471	5,430	755,722	素材	
PLANET FITNESS INC - CL A	370	512	3,444	479,232	消費者サービス	
ENVISTA HOLDINGS CORP	1,239	938	3,138	436,658	ヘルスケア機器・サービス	
INMODE LTD	804	1,712	5,841	812,845	ヘルスケア機器・サービス	
ELF BEAUTY INC	186	375	3,987	554,888	家庭用品・パーソナル用品	
小計	株数・金額	9,558	18,589	88,017	12,247,635	
	銘柄数<比率>	17	15	—	<48.1%>	
(ユーロ…ドイツ)			千ユーロ			
BETERSDORF AG	142	587	6,912	1,036,912	家庭用品・パーソナル用品	
SYMRISE AG	—	400	3,854	578,233	素材	
小計	株数・金額	142	987	10,767	1,615,145	
	銘柄数<比率>	1	2	—	<6.3%>	
(ユーロ…フランス)						
LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	212	141	11,608	1,741,235	耐久消費財・アパレル	
L'OREAL	462	256	10,320	1,548,041	家庭用品・パーソナル用品	
INTERPARFUMS SA	1,163	267	1,843	276,565	家庭用品・パーソナル用品	
小計	株数・金額	1,837	666	23,772	3,565,843	
	銘柄数<比率>	3	3	—	<14.0%>	
ユーロ計	株数・金額	1,980	1,653	34,539	5,180,988	
	銘柄数<比率>	4	5	—	<20.3%>	
(イギリス)			千イギリスポンド			
UNILEVER PLC	2,113	1,464	5,856	1,023,115	家庭用品・パーソナル用品	
RECKITT BENCKISER GROUP PLC	816	226	1,387	242,330	家庭用品・パーソナル用品	
CRODA INTERNATIONAL PLC	—	739	4,452	777,842	素材	
小計	株数・金額	2,929	2,430	11,696	2,043,288	
	銘柄数<比率>	2	3	—	<8.0%>	
(スイス)			千スイスフラン			
GIVAUDAN-REG	23	12	3,579	553,579	素材	
STRAUMANN HOLDING AG-REG	281	97	1,316	203,662	ヘルスケア機器・サービス	
DUFREY AG-REG	703	1,259	5,011	774,991	一般消費財・サービス流通・小売り	
小計	株数・金額	1,007	1,368	9,907	1,532,232	
	銘柄数<比率>	3	3	—	<6.0%>	
(香港)			千香港ドル			
L'OCCITANE INTERNATIONAL SA	2,550	11,460	24,237	430,465	家庭用品・パーソナル用品	
CHINA TOURISM GROUP DUTY F-H	—	390	4,726	83,947	一般消費財・サービス流通・小売り	
小計	株数・金額	2,550	11,850	28,964	514,413	
	銘柄数<比率>	1	2	—	<2.0%>	

銘柄	株数	当 期 末		業 種 等	
		株 数	評 価 額		
			外貨建金額		邦貨換算金額
(韓国) LG H&H	百株 2	百株 47	千韓国ウォン 2,515,760	千円 270,695	家庭用品・パーソナル用品
小 計	株 数 ・ 金 額 2	47	2,515,760	270,695	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	—	<1.1%>	
合 計	株 数 ・ 金 額 18,028	35,939	—	21,789,254	
	銘 柄 数 < 比 率 >	28	29	—	<85.5%>

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の〈 〉内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2023年6月9日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 24,973,417	% 91.0
コール・ローン等、その他	2,482,837	9.0
投資信託財産総額	27,456,254	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(23,575,495千円)の投資信託財産総額(27,456,254千円)に対する比率は85.9%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=139.15円	1 ユーロ=150.00円	1 イギリスポンド=174.69円	1 スイスフラン=154.65円
1 香港ドル=17.76円	100韓国ウォン=10.76円		

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年6月9日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	28,789,839,520
コール・ローン等	673,967,530
株式(評価額)	24,973,417,413
未収入金	3,116,973,143
未収配当金	25,481,434
(B) 負債	3,309,585,989
未払金	1,333,585,420
未払解約金	1,976,000,000
未払利息	569
(C) 純資産総額(A-B)	25,480,253,531
元本	13,504,706,938
次期繰越損益金	11,975,546,593
(D) 受益権総口数	13,504,706,938口
1万口当たり基準価額(C/D)	18,868円

<注記事項>

- ①期首元本額 15,234,744,250円
 期中追加設定元本額 984,077,132円
 期中一部解約元本額 2,714,114,444円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.8868円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジなし)	11,165,446,133円
ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジあり)	2,339,260,805円
合計	13,504,706,938円

○損益の状況 (2022年12月10日～2023年6月9日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	228,218,697
受取配当金	225,559,726
受取利息	1,070,158
その他収益金	1,730,908
支払利息	△ 142,095
(B) 有価証券売買損益	1,131,926,897
売買益	2,821,083,287
売買損	△ 1,689,156,390
(C) 保管費用等	△ 2,084,605
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,358,060,989
(E) 前期繰越損益金	12,223,388,292
(F) 追加信託差損益金	770,772,868
(G) 解約差損益金	△ 2,376,675,556
(H) 計(D+E+F+G)	11,975,546,593
次期繰越損益金(H)	11,975,546,593

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

【お知らせ】

三菱UFJ国際投信株式会社は、2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更します。